

第3回 道の駅よこはまエリア地方創生拠点 基本計画策定委員会 議事要旨

日時：平成28年3月22日（火）14:00～16:00

場所：横浜町ふれあいセンター 大会議室

【基本計画について】

- ・基本計画（案）について修正意見はなく、基本計画として成案とする。

【運営体制について】

- ・計画の実現に向けて、協議会をつくる必要性を感じる。ソフト施策の中でも、協議会の立ち上げのハードルが最も高く、施策の持続可能な体制を構築するために、相当関係者が注力していないとならない。
- ・道の駅の運営にはいくつかの団体が関わっているため、誰がやるのかということは、最終的にネックになると感じている。
- ・住民アンケートの結果では、道の駅の活動に参画してみたい方が約10%いる。道の駅に関心のある住民をネットワーク化することにより、大きなことができるのではないかと。
- ・レストランの運営や野菜販売等、問題は山積みであるが、出来ることから対応していき、委員会の意見についても協議会に提案していきたい。

【事業実施について】

- ・実証実験のやり方によっては上手くいかない場合もあるため、実証実験の手法について丁寧に検討する必要がある。
- ・道の駅での実証実験等には、総合販売戦略課や農業関係のIT化に取り組んでいる課等に協力してもらうなど、横断的な取組により重点道の駅として凄い事業を実施していただきたい。
- ・高齢者は運転操作の誤り等により、交通事故を引き起こしやすいため、道の駅へ行く際には、自家用車ではなく買い物バス等を利用した方が良い。また、高齢者への対応としては、免許返納なども視野に入れて、自動車がなくなるとも生活できる基盤の整備も必要。
- ・事業の実施について、住民や事業者に丸投げにせず、行政の若い職員の勉強の場とする等とするべきである。青森県にもサポートしていただきたい。
- ・青森県地域活力振興課が今後実施予定の、大学と連携したインターンの受け入れやファシリテーター派遣も非常に良いテーマである。是非連携していただき、外部の力も活用して道の駅を盛り上げていきたい。
- ・青森県、横浜町、住民、事業者の皆様、大学等が持っているものを出し合い取り組んでほしい。

【関係団体について】

- ・なたねの会では、会員が増えず、また、やめていく会員が多いという問題があるため、会員募集のためのチラシを作成し、今後は取組紹介のポスター展示を予定している。道の駅が重点道の駅として選定されたことを大きな手がかりとして、人材確保のために会をアピールする取り組みなど、今後も活動を行っていききたい。
- ・なたねの会としては、今後も、漁協や農協にバックアップしていただきながら活動をしていきたい。
- ・衰退する商工会が運営を続けていくためには、道の駅を拠点にしていくしかない。

【施設整備について】

- ・菜の花フェスティバルの時期等は混雑することが想定されるため、歩道橋の設置も必要ではないか。

【特産品を活かしたブランド品の開発について】

- ・横浜町にしかない「一品」を開発するために、経験があり確たる信念を持った専門家による指導をいただきたい。
- ・横浜町の観光入込客数に対して、道の駅への立ち寄り率は非常に高い。また、町外からの来客者が多いため、横浜町ならではの一品のようなものがあれば、上手く回っていくのではないかと考えている。
- ・漁協では、昨年度「横浜なまこ」の商標登録を行い、今後は販路拡大として東京等への発送を行いたいと考えている。また、昨年度の駅でなまこ 500 個の販売を行ったところ完売した。

【野菜売り場について】

- ・野菜売り場での商品不足を解消するためには、道の駅で販売するための野菜を専門で生産する体制が必要ではないか。
- ・野菜の生産に、シルバー人材を活用することが考えられる。
- ・横浜町の野菜が不足する時期に、他地域より野菜を入荷する等の対応をとる場合、広域合併した農協としても協力することができる。
- ・横浜町の農家が野菜を生産することが最もよいと、農協としても野菜の栽培技術や指導等で支援したいと考えている。それ以外にも、農協で支援できることがあれば声をかけていただきたい。
- ・以前、高齢者向けハウス栽培を実施したが、ハウス栽培をする高齢者がいない状況にある。この活用が上手くできればよい。

【その他】

- ・道の駅周辺のドライブインで観光バスとの契約を結んでいる。そのため、道の駅では、ドライブインとバッティングしないように、観光バスとの契約をしていない。

以上